

コラム 基盤研究（萌芽）を創設し、内部評価委員会において12課題を採択

表-1 25年度に採択された基盤研究（萌芽）の研究課題

遺伝子解析による嫌気性消化槽の維持管理技術の開発
深層崩壊の監視・観測技術に関する研究
外力性変状の発生したトンネルにおける補強後の全体耐力に関する研究
降水現象の極端化に伴う流況変化等が河川生態系に与える影響に関する研究
河川水における溶存態有機物の粒径画分の特性解析と生体・生態影響評価
下水処理水が両生類の変態に及ぼす影響に関する基礎的研究
積雪寒冷地河川における流出計算の精度向上と洪水・濁水リスク評価に関する研究
積雪寒冷地救急医療からみた道路空間活用の便益計測に関する研究
吹雪リスクコミュニケーションに関する研究
掃流砂観測手法開発に関する研究
大規模酪農地帯の牧草地における有機性肥料由来炭素の土壌貯留機構に関する研究
アスファルト廃材の再利用による特殊土の改良強度特性に関する研究

第3期中期計画期間（23～27年度）における土木研究所の研究区分は、「プロジェクト研究」、「重点研究」、「基盤研究」の3つに分けられており、そのうち重点的研究開発であるプロジェクト研究と重点研究には、総研究費の概ね75%を充当することを目途としています。

一方で、平成24年8月7日に開催された『国土交通省独立行政法人評価委員会土木研究所分科会』では、委員より「重点課題研究への傾斜配分（75%）の比率については常に見直しを検討して欲しい。少し傾斜配分が強すぎるように思う」、「プロジェクト研究と重点研究に集中的に投資する一方で、将来の投資という観点から萌芽的研究についても取り組まれない」とのご意見をいただきました。

これらのご意見を受け、所内で検討した結果、第2期中期計画期間（18～22年度）では、「一般研究」、「萌芽的研究」、「研究方針研究」の3つに分けられていた研究区分を第3期中期計画期間で「基盤研究」に一本化したことにより、萌芽的な研究課題も基盤研究として同じ基準で評価を受けることになったため、研究者は一定の予算規模で成果が確実に期待できる研究を提案し、それが内部評価委員会で採択される傾向が強まっていたことが判りました。

長期的な視点での基盤研究や萌芽的な研究を増やし、若手研究者の萌芽的な研究への取り組みを促進するには、基盤研究の中に新たなカテゴリーが必要であると考え、25年度の秋期の内部評価委員会より、「基盤研究（萌芽）」を創設しました。「基盤研究（萌芽）」は、研究の成果を得られるか否かのリスクはあるが、成功した場合には今後の研究や技術開発につながり大きな効果が見込める初期段階の研究であり、土木研究所の研究者の研究意欲・チャレンジ精神の向上も期待されます。

25年度の内部評価委員会では、16課題の審査を行い、表-1に示す12課題を採択しました。